



新しい元号になりました。日本の歴史上の出来事の名義には元号が度々用いられています。「大化の改新」、「承久の乱」、「元禄文化」などです。他方、干支を用いて表す場合もあります。「壬申の乱」や「戊辰戦争」などです。いずれにしても、今ではわが国独特の表現方法です。将来「令和の〇〇」と言われる出来事があるかもしれませんが、明るく希望のある出来事であるように願っています。

## 西方の田植え風景(昭和30年頃)



# 田植えまでの田んぼ

「早乙女が裳裾ぬらして 玉苗植うる 夏は来ぬ」(佐佐木信綱作「夏は来ぬ」と歌われた頃の田植えに使われた農具が、大間野町や旧東方村(レイクタウン)の中村家住宅に展示してあります。連休の間に市域の田植えも進みました。今では改良を重ねられた農機具によって、田植えや水田耕作の風景も変わりました。ここではトラクターやコンバインが使われる前の、田植えまでの作業過程と使われた農具についてお話ししましょう。(用具の名称や使い方は地域によっても異なる場合があります。)



冬の田



田うなが進んで土が細かくなります。



水を入れたばかりの田。畦はまだ冬のまです。

## 1. 田うない(田起こし)

### (1) 一番うない

冬を越して硬くなった田の土を砕いて柔らかくする作業を数回行います。一番うないには「備中ぐわ」を用いました。牛馬に大型の犁を引かせる場合もありました。一度起こした後で風呂ぐわを使って細かくしました。

### (2) 二、三番うない

さらに牛馬にひかせる大型の犁(オングヤオオグワ)を使って深く掘り起こします。ここまでの作業は稲の結実の基礎になるもので、収量にも大きく影響するそうです。

この頃には用水路に水が通され、田に水を引く準備も進めます。

## 2. 灌 漑

### (1) 水入れ

踏み車(水車) (右の写真など)を使って用水路から水を田に入れます。用水路は村の共同管理で維持され、時には他の村との争いに発展することもありました。



風呂ぐわ

備中ぐわ



柄鍬：これは人が使うものです。鉄は貴重だったので、風呂ぐわ同様に刃先だけに鉄を用いています。





## (2) 畦塗<sup>あぜ</sup>り

田の一枚一枚は畦で仕切られています。畦は田の境というだけでなく、水の管理に重要な役割を果たしています。田の水が漏れないように、畦の表面には泥土を塗って保護します。



替<sup>かわ</sup>り苗代 (大相模) : 田の準備の間には苗を育てます。(昭和30年頃)



田植えを待つばかりの田んぼ。

## 3. 代掻<sup>しろか</sup>き

田の土をさらに細かくして水と馴染ませると共に、土の表面を平らにする作業です。この場合にはマンガ (馬鍬) やならし棒 (板) などが使われました。

これまでの作業の間に、田の水は次第に温められていき、こうした作業の末に苗代<sup>かわり</sup>で育てられた苗が植えられます。



マンガ (馬鍬) : 牛馬にひかせました。

# 町家の造りがわかります

## 旧大野家住宅 (はかり屋) 【国登録有形文化財 (建造物)】

「古民家だより」(No.3 及び 7) に続き、旧日光街道沿いの旧大野家住宅 (はかり屋) のご紹介です。間取りが町家の特徴を表しています。



町家は間口よりも奥行きの方がずっと長いのが特徴です。通り庭は家によっては主屋の屋根がかかり、建物と一体となって細長い土間として敷地の奥まで続いているものもあります。この通り庭は、日光街道の東側の町家には通りから見て右側に、西側の町家には左側に設えてあるのが多く、越ヶ谷宿の都市計画を思わせます。

## 予告

防災フェス 2019

ミニ企画展 浅間山噴火と越谷

「難儀の内へ加わり候」

《日時》5月25日(土)、26日(日) 9:00~16:30

《会場》旧東方村中村家住宅 (レイクタウン9-51)

天明3年(1783)夏、浅間山の大噴火によって埋まってしまった村がありました。この村の生存率は16%あまり。その人々による村再建、そして越ヶ谷の状況から、現代の私たちに問いかけてくるものを考えます。

どうぞ来館ください。(当日は入館無料です。)